

調査速報

外食需要動向(2022年8月)

台風等の天候要因で一時的に伸び悩んだものの外食支出の回復基調に変化はないとみる

主任研究員
佐橋 官
045-225-2375
sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2022年8月の1世帯あたり実質外食支出金額は、台風上陸等の天候要因で前月比マイナスとなった。ただし、前年同月比では3割超の増加である。また、8月の外食産業売上高は前年同月比18.0%増と堅調に推移している。行動制限がないことによる、これらの回復基調に変化はないとみる。
- ただし、外食産業売上高の推移をコロナ前の2019年と比較すると、今年8月は客単価が上昇する一方で客足が鈍っており、前述の天候要因に加え、「値上げ」の影響も顕在化し始めた可能性があると考え。

1. 2022年8月の家計の実質外食支出金額は前月比マイナス

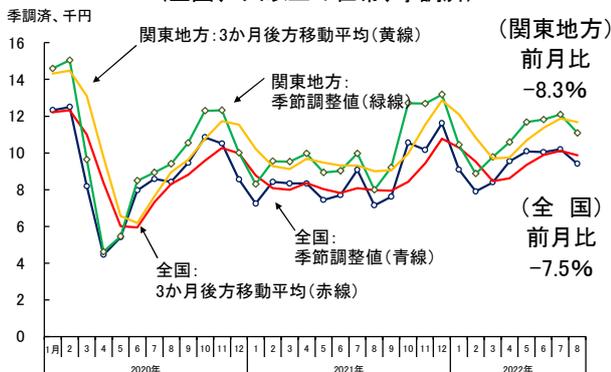
総務省「家計調査」に基づく2022年8月の1世帯あたり実質外食支出金額は、全国が前月比7.5%減(前年同月比34.5%増)、関東地方が前月比8.3%減(前年同月比38.8%増)となった(図表1)。8月は週末に雨天が多く、お盆休みの時期には台風8号が関東地方を通過したことなどから、全国、関東地方とも、前月比ではマイナスとなった。ただし、神奈川県や東京都に緊急事態宣言が発出されていた昨年8月と比較すると、今年8月は3割超の増加となる。行動制限がないことによる家計の実質外食支出の回復基調に変化はないとみる。

2. 外食産業売上高は、8月も客数、客単価ともに前年同月比で増加が続いた

8月の外食産業売上高は前年同月比18.0%増であった(図表2)。8月も客数(同10.1%増)と客単価(同7.1%増)の両方が売上高を押し上げた。前年(2021年8月)は緊急事態宣言下で酒類の提供が制限されていたために今年8月の伸び率が高まったという面はあるものの、外食産業売上高は堅調に推移している。

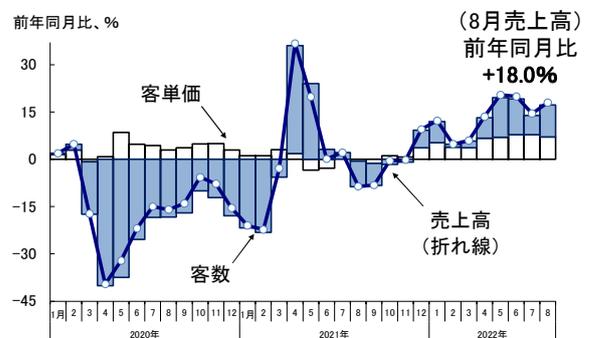
なお、コロナ禍前の2019年同月の水準と比較すると、今年8月の外食産業売上高は9.4%減であった(次頁、図表3)。

図表1 実質外食支出金額は前月比で増加
(全国、2人以上の世帯、季調済)



注1:総務省「家計調査」の用途分類「一般外食」。
注2:実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
出所:総務省「家計調査」より浜銀総研作成

図表2 外食産業売上高は高い伸びを維持
(全国、全店、前年同月比)



注1:全店とは、既存店と新規店の合計。
注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

3. 好調だったファストフードでも8月は客足が鈍っており、「値上げ」要因が含まれるのか注意が必要

業態別の動きをみると、8月も調査対象の全ての業態において前年同月比で増収となった。感染症対策と社会経済活動を両立させる動きが続いており、回復が続いていることが確認できる（図表3）。

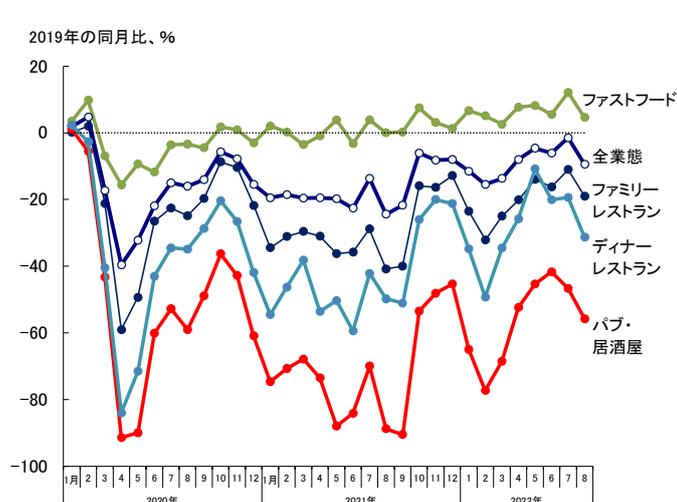
ただし、コロナ禍前の2019年の水準と比較すると、これまで回復が顕著であったファストフード業態で8月は増収率が7月に比べて鈍化した（12.1%増→4.6%増）（図表4）。また、ファミリーレストラン業態では、7月にはコロナ前の9割程度まで回復していたが、8月は減収率が拡大（悪化）した（11%減→19%減）。これらは前述のとおり、天候要因による客数の伸び悩みが主たる要因と考えられる。ただし、各業態ともに客単価が上昇する一方で客足が鈍っていることから、足元で発生している外食価格の「値上げ」の影響も懸念される。値上げが客数の減少に結び付いているのか、注意深く推移をみる必要がある。

図表3 外食産業売上高(2022年8月、全国、全店)

業態	店舗数	売上高		客数		客単価	
		前年比	2019年比	前年比	2019年比	前年比	2019年比
全体	37,059	18.0%	-9.4%	10.1%	-17.4%	7.1%	9.5%
ファストフード	21,364	7.1%	4.6%	3.9%	-11.0%	3.0%	17.5%
洋風	6,239	3.8%	20.3%	3.2%	-5.2%	0.6%	25.7%
和風	5,122	7.8%	-0.6%	-0.1%	-12.2%	7.9%	12.9%
種類	3,215	21.2%	-14.9%	14.6%	-20.5%	5.8%	9.0%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,370	6.7%	-2.9%	3.1%	-8.8%	3.5%	8.7%
その他	2,418	8.0%	-11.9%	6.7%	-18.7%	1.2%	9.9%
ファミリーレストラン	10,770	31.5%	-19.0%	23.3%	-26.3%	6.7%	6.5%
洋風	5,283	27.0%	-23.8%	21.9%	-29.7%	4.2%	3.7%
和風	2,664	35.9%	-22.6%	25.7%	-29.6%	8.1%	2.8%
中華	1,375	23.9%	-1.0%	21.3%	-12.7%	2.2%	10.9%
焼き肉	1,448	50.8%	-7.9%	36.3%	-8.6%	10.7%	3.7%
パブ・居酒屋	1,849	342.7%	-55.8%	233.5%	-44.6%	32.7%	2.3%
パブ・ビアホール	429	422.1%	-53.3%	9.9%	-86.7%	27.4%	1.1%
居酒屋	1,420	307.8%	-57.1%	194.8%	-45.0%	38.3%	3.1%
ディナーレストラン	922	53.9%	-31.3%	40.3%	-29.3%	9.7%	7.1%
喫茶	1,901	25.7%	-23.9%	14.5%	-32.1%	9.8%	14.9%
その他	253	43.3%	-14.2%	31.6%	-4.9%	8.9%	6.3%

注1: 全店とは、既存店と新規店の合計。
 注2: 売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
 注3: 売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
 注4: 客数と客単価の2019年比の値は浜銀総研が算出。
 出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

図表4 業態別売上高の推移(2019年比)



注1: 調査対象は全国の全店（既存店と新規店の合計）。
 注2: 名目ベースの税抜き価格による比較。
 注3: 店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
 出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

本レポートは、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると判断した情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。ご利用の際は、最新の情報をご確認くださいませますようお願いいたします。